

4.11総評青年協主催「79国民春闘・統一自治体選挙勝利全国青年
労働者総決起集会」に参加すべく錦糸町駅に結集した動労千葉青年部部隊に対し、動
労青年部を僭称する革マルが暴力の限りを尽して襲いかかった。
動労千葉青年部は毅然としてこの襲撃を粉砕し、三時間余の対峙の後、津田沼支部
において「革マル弾劾集会を開催し、かけつけた親組合員も含め二五〇名が、動労青
年部を僭称する革マルのこの暴挙に対し、燃え上る怒りの中で、本日12日に予定され
る「動労青年部オルグ」を名のる「破壊襲撃」を、「来るなら来い」と叫び粉砕す
る決意をうちかためたのである。

4.12 動労千葉破壊襲撃を打ち破れ!

追いつめられた

革マルの焦りと動揺

革マル幹部・伊藤、寺崎の二名を伴い、
駅当局に対して「列車が止つても動労本部
が責任をもつ」と桐喝し、行われたこの襲
撃は、権力、当局にまで泣きつくという革
マルのこの間の「恥も外聞もない」動労干
葉破壊襲撃の本質を改めて認識させるもの
であった。動労千葉青年部の結集場所であ
るホームで四〇〇名の部隊を投入し、到着
する列車から降りた動労千葉青年部員をと
り囲み、殴る、蹴るの暴力を働き、持ち物
や衣類を奪うという卑劣な攻撃に対し、動
労千葉青年部は列車が到着する度に増大す
る一八〇名の部隊をまとめ、権力の介入を
考慮しつつ(権力・当局が弾圧したいのは
「賃物安定宣言」による「当局の親衛隊」
革マルではなく闘う動労千葉なのだ。)乗
務員駐泊所へ結集し、この暴力集団と対決
したのである。

また、暴力集団にとり囲まれた二〇名余
は三時間余りにわたって殴る、蹴るの暴力
も含めた脅迫をうけながら、自らの闘いに
絶対的確信をもち、さ然と対峙し続けたの
である。

全国から集められた四〇〇名の動労青年
部員は、革マル分子の劣化組合にあるまじ
きあまりにもセクト丸出しの暴虐に眼をぞ
むけ、この暴行に加わろうとせず、本部青
年部書記長・佐々木、関東青年部長・村上
等数人はこのことに集り、ますます凶暴に
暴力をふるってきたのである。「俺はこの
野郎に個人的に恨みがある」と口走り、暴
力をふるった関東青年部長・村上の姿、そ
は、追いつめられた革マルの焦りと動揺を

示して余りあるものであった。

鮮明な動労千葉の正義と

革マルの不正義

革マルは何故にこのような暴虐の限りを、
駅ホームという公衆の面前で、権力に見守ら
れながらやらなければならなかったのか。
動労千葉青年部が千葉県労連部隊の一員と
して総評青年協集會に登場するということが
「水本」をはじめとし、動労をセクト的に引
きまわしてきた革マルの許すことのできない
不正義と「三里塚・ジェット闘争貫徹」「賃
物安定宣言廃棄」「暴力的組合支配阻止」を
はじめとする動労千葉の正義を、鮮明に全国
の青年労働者の前に突き出す問題であったか
らである。

自らの運動をまっとうし劣化運動として押
し出すことができない路線上の誤りを、正し
く闘う者を暴力的に排除することによってい
んべいしようとし、そのためにはまじめな
動労組合員を機関の指令をもちて引きまわし
セクト的に利用するという革マルの体質を
この4.11錦糸町駅頭における事態は何より
も鮮明に突き出している。

「来るなら来い」
粉砕あるのみ

しかし、この暴行によって、自らの汚らし
い目的を押し通そうとした革マルの策動は完
全に粉砕された。

オ一に、汚れきったタクラミは全国の青年
労働者、劣化組合の間にあまねく知れわたり
時が経つにつれてますます拡大してゆくから
である。激動の八〇年代階級闘争を、いかに
劣化者、人民の側に切り拓いてゆくのかを真
へ裏へつづく

労農連帯を一層強め、三里塚・ジェット闘争を貫徹しよう!

4.11 錦糸町駅頭

革マルの策動を完全に粉砕!